

第2回 携帯電話の基地局整備の在り方に関する研究会

自治体プレゼンテーション 長野県 木曾町 御嶽山の 状況と課題について



国土地理院撮影 26.9.29

平成26年09月29日 10:27
国土地理院撮影

平成30年12月5日
長野県 **木曾町**

■木曾町の概要

- ◆ 面積 476.03km²
- ◆ 人口
H17:13,985人(合併当時)
→ H30:11,379人
- ◆ 御嶽山 百名山
標高:3,067m
国内第14位の高山
- ◆ 御嶽山入込(観光統計より)
H25:1,721百人※噴火前
H28: 667百人※噴火後3年
(△61.2%)



木曾町

平成29年1月 木曾町のシンボルとして「御嶽山」を指定



■ 御嶽山

2014噴火口付近

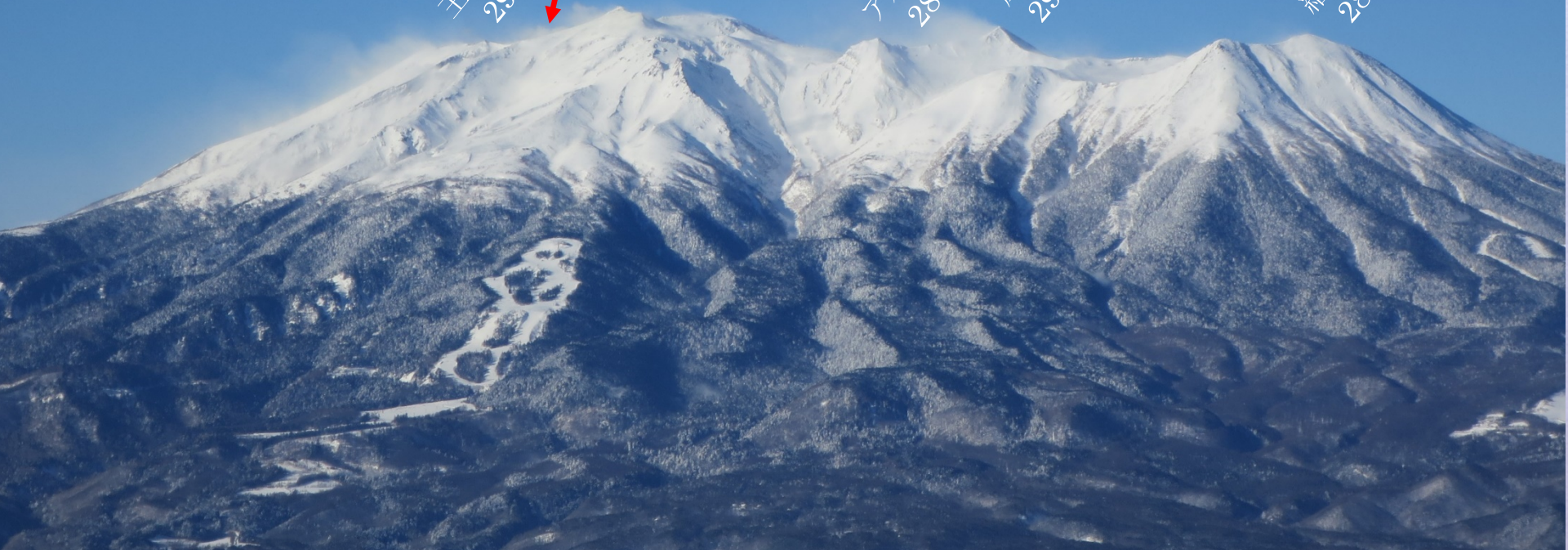
王滝頂上
2936m

剣ヶ峰
3067m

アルマヤ天
2897m

摩利支天
2959.5m

継子岳
2859.1m



■御嶽山噴火災害

◆平成26年9月27日(土)11:52頃 噴火

◆気象庁

平成26年噴火前 噴火警戒レベル1
平成26年9月噴火 // レベル3(火口から4km)
平成27年6月 // レベル2(火口から1km)
平成29年8月 // レベル1(※参照)

※1活火山であることの留意

※2活発な噴気孔から概ね500mの範囲では、突発的な火山灰等のごく小規模な噴出に注意が必要です。



2016.9.27 二ノ池から噴火の様様

◆町の対応

平成29年8月 災害対策基本法第63条適用

長野県 木曾町・王滝村

岐阜県 下呂市 (※高山市)

◎火口から1km圏内を規制

※気象庁のレベル2の範囲内で立入規制をする

平成30年9月26日から10月8日

13日間の規制緩和

全国から6,000人以上の登頂



2018.9.26 頂上慰霊碑撮影



2018.9.26 登頂



【趣旨】御嶽山は噴火警戒レベル1で火山活動は静穏な状態だが、火口から概ね1km範囲内は必要な安全対策が整うまで立入規制を継続中。
御嶽山が再び安全に登れる山となることを目指し、立入規制解除に向け、概ね2020年度を目途に地元町村と長野県が安全対策を計画的に推進する。

基本方針

- ◎ハード・ソフト両面の安全対策を実施し、平成26年の噴火災害時よりも安全性を向上させる。
- ◎必要な安全対策が整った範囲から規制を解除（緩和）する。
- ◎火山活動に関する正確な情報発信・伝達を行う。

ハード対策

安全対策
ポイント

- 火山活動の変化を的確に検知し、迅速に登山者等に伝達できる
- 予測不能な突発的噴火の際、避難できる施設が整備されている
- 噴火警報発表時、噴火時に登山者等が安全・迅速に退避できる

ソフト対策

《剣ヶ峰及び黒沢口登山道（二ノ池～剣ヶ峰）エリア》 ※火口から概ね1km範囲

区分	実施主体	H29	H30	H31	2020年度以降
避難施設	御嶽頂上山荘	解体撤去	シェルター整備		
	御嶽剣ヶ峰山荘	調査・(施設取得)	危険防止(一部撤去)	解体・避難施設整備	
	二ノ池本館	改築(アラト補強)			
	神社施設	解体撤去	(祈禱所再建) ※アラト補強支援し緊急時避難施設にする	(社務所改修)	
避難路(登山道補修)	木曾町	二ノ池～剣ヶ峰	屋外スピーカー等設置	同報系防災無線整備	
情報伝達設備	木曾町	携帯電話不感調査	携帯電話不感対策(設計、基地局整備)	携帯電話不感対策(設計、基地局整備)	
		変更後	電源供給方法等検討	携帯電話不感対策(設計、基地局整備)	

【☆印】ハード・ソフト対策実施⇒規制解除①(二ノ池～剣ヶ峰)

- 登山指導所設置 ☆ [H30] ◆ [H31]
火山活動・規制等情報提供
登山計画書・安全装備確認
- パトロール隊の配置拡充 ☆ [H30] ◆ [H31]
火山活動監視、登山者滞留防止指導
- 注意喚起標識の設置 ☆ [H30] ◆ [H30,31]
規制解除(緩和)エリア内
- 情報伝達手段確保 ☆ [H30] ◆ [H31]
山頂登山者等への警報等伝達ルート確立
- 異変検知時対処方針確立 ☆ [H30] ◆ [H30]
警戒レベル2未達の異変検知時の規制、退避誘導等の対処方針
- 避難計画等整備 ☆ [H30] ◆ [H30,31]
避難誘導マニュアル・訓練、避難促進施設指定、避難確保計画策定支援

情報発信、防災啓発・教育(平常時)

- ・火山活動、規制情報等リアルタイムの情報提供、御嶽山の魅力発信
- ・御嶽山火山マイスター養成、防災教育
- ・御嶽山ビジターセンター(仮)整備

《王滝頂上及び王滝口登山道（9合目～王滝頂上～剣ヶ峰）エリア》 ※火口から概ね1km範囲

区分	実施主体	H29	H30	H31	2020年度以降
避難施設	パトロール待機所		設置(9合目)		
	王滝頂上山荘		設計	避難施設に改修	
	シェルター			設置(八丁タリ)	
避難路(登山道補修)	王滝村	9合目～王滝頂上		王滝頂上～剣ヶ峰	二ノ池トラス
情報伝達設備	王滝村		防災無線スピーカー増設		携帯電話不感対策

【◆印】ハード・ソフト対策実施⇒規制解除②(9合目～王滝頂上)

【◇印】ハード対策実施⇒規制解除③(王滝頂上～剣ヶ峰)

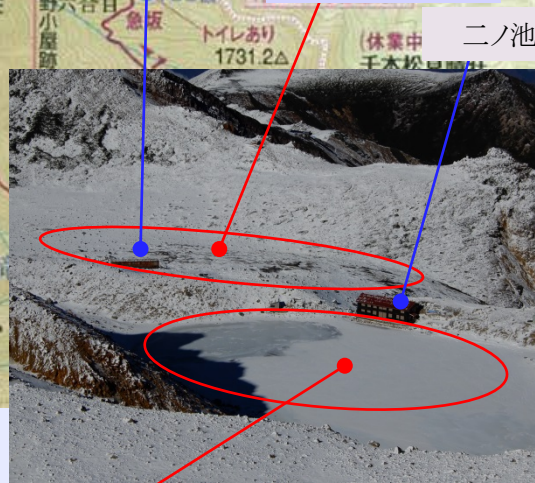
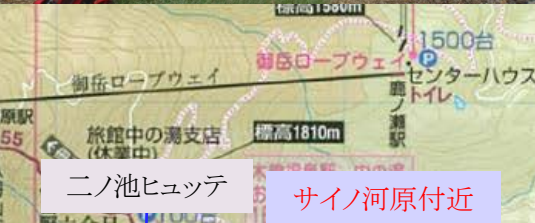
■御嶽山不感地帯の現況

サイノ河原付近で調査(2017.8.4)

◆サイノ河原周辺(木曽町・下呂市)



◆二ノ池周辺 (木曽町)



◆王滝頂上付近(王滝村)

二ノ池周辺



■不感地帯解消の取り組み状況

携帯事業者様・電力会社様・総務省様・長野県様等のご協力により、御嶽山不感地帯解消のための会議や現地調査を進めて参りました。

◆平成28年度

御嶽山不感地帯の解消要望

◆平成29年度

キャリア3社と関係者で不感地帯現地調査

◎解消の打合せ会議 4回

県にて 3回

木曾町にて 1回

◎現地調査 2回

◎調整(森林管理署等) 3回

◆平成30年度

鉄塔型無線基地局設置断念

◎解消の打合せ会議 7回

県にて 2回

総務省にて 4回

木曾町にて 1回

◎現地調査 2回

※他の解消方法検討

不感地帯の確認と基地局設置の方向で確認



現地調査 (2018.10.12)

■現状と課題

◆現状

1. 御嶽山噴火
死者58名、行方不明者5名
2. 御嶽山不感地帯
二ノ池周辺、サイノ河原周辺
3. 現地調査:鉄塔型無線基地局設置断念
ブースター基地局で検討中
検討(案) 電波増幅装置設置検討
4. 木曾町の予算規模
標準財政規模 約68億円
実質公債比率 4.9%
5. 景観
気象庁・大学による火山観測のための工作物



二ノ池にて現地調査(2018.8.4)

◆課題

1. 減災対策
避難壕などのハード対策や入山者に対する意識の向上などのソフト対策を講じながら減災に導くことが必要
2. 不感地帯の解消
御嶽山防災力強化計画に減災対策に明記
3. 電波増幅装置の検討
鉄塔型基地局整備の断念。ブースター基地局で検討中
4. 御嶽山復興に係る全体事業費
H30年度までの 総事業費約7億円
5. 工作物
噴火後工作物が多く設置されたが、観測機器は必要



観測機器

■ 提案

1. 電源確保

御嶽山は、基地局設置の電力線確保が地理的条件により不可能。
電源ケーブルの支援や他の方法(例:太陽光)による電源確保の支援。

★電源確保に対する財政支援

2. 経費

イニシャルコストが莫大な額になる。
ランニングコストは、継続的に要する。

★経費支援の拡充

◎ランニングコストの要因
人件費、燃料輸送費(ヘリによる空輸) 等

3. 事業実施主体

基礎的自治体の規模が小さい。
木曾町職員数160名 三岳支所13名
※国有地……森林管理署管理の国有地
※自然保護……御岳県立自然公園 自然公園法適用

★国・県による事業展開

4. さらなる非居住地エリアの不感解消

御嶽山に関わる関係市町村の不感解消をはじめ、木曾駒ヶ岳、集落の避難施設、ライフラインの一つである水道採水池や浄水場など、生活圏外ではあるが不感又は微弱の解消。

★住民・観光客の安心

◎防災・減災につなげる

ご静聴ありがとうございました

スンキ(塩を使わない漬物)



木曾の赤カブ



二ノ池山荘

そば(開田高原産原蕎麦)



トウモロコシ
(寒暖の差があり甘いです)



巴ちゃん・義仲君



うめみちゃん



福ちゃん・島ちゃん



木曾っ子

木曾町のマスコットたち

